



シリーズ タンチョウ Vol. 368

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

石下 亜衣紗

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



JALの皆さんと冬期自然採食地整備 10年目！

10月24日に今年も日本航空（JAL）の皆さんとタンチョウの冬期自然採食地整備を行いました。JALの企業マークである「鶴丸」がご縁で、長年さまざまな形でご協力いただいております、この整備作業はCSR活動（環境保護・社会貢献）として今年で10年目を迎えました！タンチョウ達が給餌に頼らなくても自然環境で餌がとれるようにと整備している採食地は村内に17か所あります。そんな中の1か所で今年は10名の参加者と共に作業しました。

10名中6名は東京からの参加で、朝の飛行機で来村されました。高松副村長から歓迎のご挨拶をいただいた後、レンジャーがタンチョウ保護の歴史や、冬期自然採食地とは何か？というこれまでの活動と、実際に自然採食地で確認された生き物や、タンチョウが利用している様子などの成果をスライドで説明しました。

そして装備を整え、いざ作業地へ！まずはタンチョウが牧草地から小川まで出入りしやすいようにササを刈り、通り道を作ります。次に、魚がより上流で産卵できるよう、川にたまった流木とゴミを撤去していきます。大きな流木がありましたが、みんなで力を合わせて次々と川から運び出すことができました。障害物を取り除くと、目に見えて水の流れや速度が変わっていくので、川遊びをするような感覚で、本来の趣旨を忘れそうになりました。全て人力の作業でしたが、10人で一丸となったので難なく終了しました。作業の最中、頭上を1組のタンチョウ家族が旋回していききました。みんなで何をしているか気になって様子を見に来たのでしょうか？

作業後はタンチョウやTVでしか見たことのないような川を泳ぐサケやほっちゃんれを観察しながら、タンチョウの暮らしについて解説しました。凍らない湧き水が湿原を潤わしていること、そこでタンチョウ達は様々な餌をとっていること。牛の餌を分け与えて給餌をしてきたことなどをお話ししました。この一日を通じて、鶴居村にはタンチョウの生息環境と見守る人々が揃っていて、それぞれの活動が今に繋がっている事を感じてもらえたと思います。

最後に音羽橋でねぐらに帰ってくるタンチョウを観察しました。列になって飛んでくる姿に歓声があがる中、一度川を通り過ぎて、旋回してからねぐらに入る姿に「飛行機みたい」という、なんともJALの方らしいコメントが。これから日々の仕事の中で、旋回する飛行機を見た時に、タンチョウのこと、鶴居村のことを思い出していただければ嬉しいです。

寒い中どうもありがとうございました。



↑寒い中やり切った後の集合写真



←参加者からのメッセージ